

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度(令和2年度)		科目名	アルゴリズムとデータ構造	
科目基礎情報							
開設学科	情報処理科		コース名	システム開発コース		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		開講時間	金曜 5時限目～		授業形態	講義
教科書/教材	アルゴリズムとデータ構造練習問題集(本校オリジナル)、ITワールド((株)インフォテック・サーブ)						
担当教員情報							
担当教員	諸岡 瑞香、鈴木 睦男、下川 洋一				実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的							
本授業は、「プログラミング基礎」の科目と連携し補完しあいながら進めていく。本授業は、最も一般的な言語のひとつであるC言語を通してプログラミングの基礎的な能力を身につけてもらうことを目的として行う。アルゴリズムの説明と演習を通して、プログラミングの概念や基本的な考え方を学ぶ。プログラムを作成する上で基本となる型や変数、演算、制御構造(条件文、繰り返し文)などについて基礎から学習する。 この授業では、論理的な思考能力、実習に基づく専門能力、問題解決力を、身につけることを目的としている。							
到達目標							
プログラムを作成するにあたって、言語の文法の習得だけでは自由にプログラムを作成することができない。アルゴリズムを理解し、自身が考える処理の流れ図に当てはめて作成できるようになることが目標である。更に、アルゴリズムを十分理解したうえでプログラミングを作成する上で基本となる型や変数、演算、制御構造(条件文、繰り返し文)などを利用したプログラムの読解と作成ができるようになることを目標とする。(論理的な思考能力・実習に基づく専門能力・問題解決力)							
教育方法等							
授業概要	本授業では、アルゴリズムや流れ図の表記を理解し、実行環境の使用方法を習得する。プログラムを考えるうえで定石となるアルゴリズムを理解し、アルゴリズムの流れ図(フローチャート)として表記していく。その流れ図をもとに、基本文法を覚えていく。まず、基本構造となる、順次構造、分岐構造、反復構造を取得する。基本構造を組み合わせることで複雑な処理や判定が行えるように理解を進めていく。更に配列などのデータの集合体に対して、並べ替えや検索などの情報処理の基本的なプログラムをマスターしていく。						
注意点	テキスト、問題集、ノート、筆記用具、ノートパソコンを必ず持参すること。毎回の授業は、前の回までの授業の内容が身につくことを前提に行うため、必ず復習を行うこと。授業時間内に終わらなかった演習問題があった場合には、各自で次の授業までに終わらせておくこと。授業に出席するだけでなく、社会人への移行を前提とした受講マナーで授業に参加すること。特別な理由(路線の運休、法定伝染病など)のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画(1回～15回) 1回(2)時間 ※45分を1時間とする							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	フローチャートの表記法			フローチャートの表記法とその記号、および3つの制御構造の概略を理解する			
2回	3つの制御構造(順次構造)			3つの制御構造の順次構造を理解する			
3回	3つの制御構造(順次構造)			順次構造を活用した、代入、交換、計算等の処理を理解する			
4回	3つの制御構造(選択構造)			3つの制御構造の選択構造について理解する			
5回	3つの制御構造(選択構造)			選択構造を活用した、大小比較、奇数判定等の処理を理解する			
6回	3つの制御構造(選択構造)			選択構造に含まれる多分岐命令を理解する			
7回	確認試験			確認試験			
8回	3つの制御構造(反復構造)			3つの制御構造(反復構造)について理解する			
9回	3つの制御構造(反復構造)			反復構造を活用した、各種の計算処理を理解する			
10回	3つの制御構造(反復構造)			多重ループについて理解する			
11回	配列操作			配列の構造、操作方法を理解する			
12回	データ構造			コンピュータでデータを記録する構成(形態)について理解する			
13回	データ構造			それぞれのデータ構造の特性を活かした処理方法を理解する			
14回	3つの制御構造の混合問題			3つの制御構造の混合問題			
15回	総合演習			これまで学んできた内容を総合的に活用できる			